【今週】

1. 論文の作成

5Gは高価 > Wi-FiとBLEは障害物に弱く不安定 > ZigBeeはマルチホップ型で安価

・1ホップの屋外の最大距離を測定している.（125m）

　＞マルチホップで実装すべき

・壁以外の障害物がないLine of Sight（階をまたぐ通信も可能にしている）

　＞多くの障害物を考慮してマルチホップネットワークを構築すべき

・実際に漁船間同士のマルチホップ通信やセンサを使用した論文

　＞ここからどう研究目的に繋げるか？

1. 題目の確認

「牡蠣の養殖場を支援する無線マルチホップネットワークの実装」

1. underwaterのRouterをnowaterのrouterの近くを置き, マルチホップでCoordinatorまで通信できることを確認する.

ダイアグラム

自動的に生成された説明

以前, C―R4―R6のマルチホップは確認できた.

水中に投下したE1とE2の実験では, 今回もR4とR6だけ設置するだけでよいか.

【今後の予定】

・論文引用をbibファイルからにする.

・Ruting実験を行う（パケット数を決定し, node数を徐々に増やしパケロスを確認する）